

**「明日のために！！」
= 臥薪嘗胆 =**

自由民主党岡山県支部連合会党再生プロジェクト

平成19年12月21日

目 次

提言書のとりまとめにあたり	1 頁
1. 選挙結果および敗因の分析と今後の課題	2 頁
(1) 選挙結果	2 頁
(2) 敗因の分析と今後の課題	3 頁
2. 具体的提言	7 頁
3. 党再生と来る衆参選挙必勝に向けて	10 頁
党再生プロジェクト委員	11 頁
党再生プロジェクト活動状況	12 頁

提言書のとりまとめにあたり

本年7月29日に施行された第21回参議院議員通常選挙は、わが党にとって極めて厳しい結果となり、とりわけ、本県においては、片山虎之助参議院自由民主党幹事長を失うという歴史的惨敗となった。特に、岡山市、倉敷市といった都市部はもちろん、県内27市町村中、10市町で水を空けられ、政党別得票数でも大敗し、いまや我が党は、結党以来最大の存立の危機に立っていると言っても過言ではない。

しかし、まさに時代が大きくなうねりとなって改革の時期を迎えている今、「改革政党」として、持続可能な社会の構築のために、我が党には、これまでに倍する大きな責務がある。また、「国民政党」として立党以来、誇り高き我が国の繁栄を守りながら、国民とともに、幾多の困難を乗り越えてきた歴史がある。なによりも、昨今の政治の不安定な状況は、我が国にとっても、国民にとっても危機的な状況であり、「責任政党」として、内外の諸課題を解決し、国民・県民の期待に応える将来展望を切り拓くことが我が党の急務である。

今、『臥薪嘗胆』の気魄を持って、我が国のために、国民のために、我が党は、生まれ変わらなくてはならない。必ず来る「明日のために！！」

今まさに、自民党岡山県支部連合会がなすべきは、今回の参議院選挙で示された民意が、地方の自民党にも向けられたものであるということを強烈に認識することである。今回の国民の皆様のご厳しい判断の根底には、政治と金の問題、あるいは、責任者の無責任な対応への怒りがある。そういった問題で、地方で当てはまるべきものを徹底的に洗い出し、機先を制して、自民党が改革の狼煙を上げる以外に、信頼回復の方法はない。すなわち、活性化というレベルではなく、これをしなければ、まさに将来潰れてしまうのだという危機感から、我が党が、なし得ることは全て行う必要がある。

そこで、今回の選挙の敗因等を徹底的に分析し、猛省し、党を再生させんがため、9月27日、党再生プロジェクトを自民党県連内に立ち上げ、直ちに取り組みを開始した。

本プロジェクトは、党所属県議会議員・職域支部代表者との議論や意見交換を重ね、これらの意見等を踏まえ、今回の参議院選挙結果を幅広い角度から分析し、問題点を摘出したうえで、今後、党として取り組むべき課題等のとりまとめを行った。

本報告書は、今回の厳しい選挙結果を踏まえた緊急中間的なとりまとめであり、ここに提起した諸課題については、速やかに実施する必要がある。

1. 選挙結果および敗因と今後の課題

(1) 選挙結果

参議院地方区の議席を全て失う

第21回参議院議員通常選挙において、与党による過半数(64議席)維持のために、わが党は単独で最低51議席以上の獲得が必要であった。選挙区候補者49名(公認48名・推薦1名)、比例代表候補者35名を擁立して選挙戦に臨んだが、結果は獲得議席38(推薦候補1名含む)にとどまる大敗を喫し、参議院の構成は与党勢力が過半数を大きく割り込むこととなった。

平成13年の第19回参議院議員通常選挙以来、2人区から1人区となった岡山県選挙区においては、平成16年の第20回参議院議員通常選挙で、我が党は議席を失い、今回の敗戦で、地方区選出の参議院議員を全て失うことになった。保守王国といわれた本県においては、衆議院においても、選挙区選出議員は、5人から2人に激減しており、我が党は、長い凋落傾向に入っていると冷静に捉えるべきである。

比例候補の健闘に応えられない

比例代表選挙においては、わが党は民主党に総得票数で671万票余もの大差を付けられ、獲得議席は民主党の20議席に対して、わが党は14議席であった。わが党の総得票数は、前回(3年前選挙)と比すると25万票余の減少にとどまったものの、投票率の上昇分の上積みがなかった。一方、政党名(自由民主党)投票に対し、比例候補は健闘し候補者個人票が80万票増加、わが党候補者の最低当選ラインは、逆に、前回の15万票から20万票に上がった。

本県においては、比例候補・政党別得票数が、我が党が、26万2644票、民主党が、35万5986票であり、特に、名簿搭載得票数では、我が党候補の得票総数が民主党よりも多いのに、政党を記載した得票では、逆に、約10万票も少ない。片山候補の票が、40万3783票であることを考えると、いかに「自由民主党」と今回の選挙では、書き難かったかが推察される。

候補の個人票も失う

今回の選挙でも、候補個人票が、政党票の10%増の票を獲得しているが、今回の投票率は、59.17%で、前回の55.51%よりも高かったにもかかわらず、片山候補は、5

0万1383票から、約10万票減らしている。あきらかに片山選対の戦術に問題があったという声もあった。また、3年前に、江田候補は、49万8515票で、今回の姫井候補が、45万1185票であったことを考えると、むしろ、民主党は手堅くまとめて、我が党は、候補個人票も、かなり失っていたとの判断も出来る。

(2) 敗因と今後の課題

逆風3点セット

今回の選挙において、われわれが全国を通じて厳しい批判にさらされた直接の要因は、「年金記録漏れ問題」、「政治とカネの問題」、「閣僚の失言等不祥事」であり、逆風3点セットとも言うべきこれらの問題が重なり合って続出し、国民の大きな怒りと失望を買う結果となった。

今回は、片山候補が、政権の中枢にいたため、この問題は、岡山選挙区には直撃であった。結果として、候補の発言としては、序盤戦いささか傲慢不遜にとられた態度があったとの指摘も多く、応援弁士も含めて、言い訳と解決策とがからまわりし、逆に、相手の中傷はマイナスという声が多くあった。

国民の意識とのずれ

政党としての国家目標、理念は高く掲げるべきだが、「美しい国」や「戦後レジームからの脱却」という訴えや、これまでの改革路線を、選挙の争点に設定することができなかった。短期間での国民投票法制定・教育基本法改正・教育三法改正・防衛省昇格・社会保険庁解体といった実績は、本来は正当に評価を得るべきものであるが、逆に、会期延長までしたが、日程を残し説明責任がなされず、法案の早期成立を強行に目指した感が一般には強いのは極めて残念である。

一方で、国民に身近な政策、生活に密着した国民の目線にあった政策も打ち出すべきであったのに、政治不信の高まりの中で、「生活が第一」とした野党キャンペーンに主導権を奪われる結果となった。政策については、細かいアンケート調査等をコストをかけて実施し、フィードバックする工夫がほしかったという声がある。

伝統支持基盤軽視

事実上の1対1の大型選挙となると、岡山市・倉敷市という都市部においては、浮動票が

帰趨を決することもあり、接戦ないしは僅差で破れることはあっても、農村部で挽回できるというのが常であった。しかし、いわゆる「川上作戦」で郡部を天王山と位置付け、伝統的
支持基盤へ民主党が攻勢をかけてきて、その図式は大きく崩れ、県内の27市町村中、17
勝10敗となり、従来のように都市部のマイナスを郡部でリカバーすることは到底不可能で
あった。

同時に、格差社会が言われる中、中央政府・自民党においては、郡部への財政的な支援は
もちろん、農村部への施策を抜本的に見直すべき方向を打ち出すべきであったのに、結果と
して、構造改革の流れの中で、最も大切な人間関係を断ち切ったのではないかという指摘が
多くある。

既存の党支持基盤の弱体化

統一地方選による選挙疲れもあるが、少なからず、市町村合併で、保守系の首長・議員が
激減しており、旧市町村議、旧市町村長を含めた協力体制構築が難しくなりつつある。

一方で、比例候補を抱える職域支部は、大逆風の中、組織として努力されていたが、自民
党として、支援が不十分であったことは否めない。小泉改革の道半ばで、悪い面のみが強調
され、支援団体・支持母体が心の底から応援できる党ではなくなったという声も強くあるこ
とから、特に、プロジェクトでは、メンバーを中心に、4班に分けて、33の職域支部を訪
ね、ヒアリングをさせて頂いた。(11頁参照)

門前払いの状態であった支部も含めて、我が党について非常に厳しい御意見を頂戴した。
比例候補について十分な支援が自民党からなかったことへのご立腹の声はもちろん、規制
緩和の流れの中で、自民党に頼んだからといって業界がよくなる時代でない、自民党に期待
が持てない、頼りがいがいない、という声を多く頂戴した。「自民党が動かなければ、いつ
でも民主党へ行く。」と、明言された団体も複数ある。少なくとも、職域支部は、自団体に
とって強力な支援になる強い自民党だからこそその支援であり、自民党の政策の全てに共感し
てボランティアで応援する組織とは異なる。自民党の応援を頂ければ、組織の声を代弁する
代表を国政に送ることが出来るという約束ができなくなれば、他党支持でも良いと考えられ
る可能性もある。このことは強く認識すべきである。

一方で、こうした職域支部においても、組織上の上滑りが起こっていたり、新たな業界の
支部がないという、問題指摘もある。また、職域支部に対する国会議員の活動が明確に見え
ないという声もあった。

マスコミの影響

結果として、選挙の焦点がぼけ、安倍降ろしの嵐が吹き続けている状況下で、本県では、「姫の虎退治」と相手陣営が、ひたすら反自民ムードを煽る中、候補本人のTV出演も、結果的に、マイナスに作用したかもしれない。

一方で、党の政策・考え方を示すべく、定期的にマスメディアとの会合を開催し、マスコミからの情報を総合的に取りまとめ、それを対策として実行する必要があるが、それができておらず、マスコミ対策が民主党に比べて不十分であったという声もある。

挙党態勢づくり、国会議員・地方議員の連携の不十分さ

政党一丸となった選挙戦略や広報戦略づくりに長けたプロフェッショナルの不在が、大きく響いた選挙であった。細々した戦術以前に、党としての大局的な戦略がなかったと言える。

国会議員同士、また、国会議員と地方議員との連携において、候補者本人だけでなく、十分な意思の疎通が、党という組織として図られていないように感じられる。少なくとも、大型選挙の際には、各選挙区事務所の事務長クラスの秘書のベテランが、選挙事務所に終始詰めて、毎朝ミーティングを行い、各選挙区に統一的な支持を流す体制は作るべきである。

特に、国会議員には、小選挙区全体を見据え、与党勝利に向けた対策をすべきで、特定の県議だけ結びついたような印象を与えたり、御自身の選挙だけを考えて行動されては困る、中選挙区に戻さないと政治全体の活力がなくなるという声もある。

今後、国会議員の新人候補の選定にあたっては、地元県議会とよく相談することが必要で、安易に官僚候補をかつぐのではなく、県議会の中から有能な人を選んで国会に送ることも考え得るという声もあり、いずれにせよ、日頃のコミュニケーション不足が、いざという時に、機動性、連携性を欠いた原因になった感は否めない。

自民党员としての誇りの喪失

自民党员としての誇りや一体感を持たせる支部作りが必要だが、国会議員から市議会議員まで各個ばらばらに党员を募り、統制のとれた心からの自民党员が減少していることや、価値観が多様化し、家族でも投票先は異なり地域や職域の統制が弱体化している事を自覚しなければならない。また、倫理観のある指導者の養成及び質の高い党员の確保が必要という声があった。特に、地域支部については、平素から、組織強化を「誰が担っていくのか」とい

う点を中心に論議していく必要がある。

こうした党への帰属意識、誇りの欠如が、組織的な運動を鈍らせた感がある。今後は、党費を安くしてより大勢の人が入党できるようにすべきであり、また、随時、党員等の意見聴取を積極的にやるべきという声もある。

平素からの参議院選挙態勢構築の努力不足

参議院議員は任期が6年間と長く、また選挙区も広大なため、一般的に有権者との馴染みが薄く、活動面も衆議院議員や地方議員、首長の既存の組織に頼りがちである。このため、独自の基盤に乏しく、選挙時の風の影響を受けやすい面がある。

参院選候補者独自の後援会組織を選挙区内の要所ごとに立ち上げるとともに、日常の地元活動を活発化させていかなければならないが、候補が政府の要職にあり、必ずしもそれが十分ではなかった。

また、比例代表候補者に関しては、単なる業界団体代表との位置付けのみではなく、全ての国民の代表としてのイメージを打ち出す必要があるという声もある。

2. 具体的提言

近年の選挙においては、国民に直接響くメッセージを効果的に打ち出し、一般有権者個々人の心をしっかりと掴み得た政党が勝利を収めている。いかにして「民意」を掴むか。選挙戦は、さながら「民意」という錦の御旗の争奪戦の様相を呈しており、民意の旗印を得た者が勝者となり得る。われわれは、いま一度、国民生活の現実に立ち返り、国民の切実な要望や声なき声に心耳を澄まし、これに誠実に応えて、国の進むべき道を示すという、民意に即した政治姿勢の原点に立ち返らなければならない。

しかし、一方で、決して無責任な大衆迎合主義に陥ることがないように、民意の吸収 取りまとめ 政策立案 提案・説明 実行 検証 民意の吸収・・・というサイクルの全ての過程において、個々の議員の資質も向上させながら、未来を見据え、未来に責任を負う「実行力を伴う政策政党」として、我が党は再生しなければならない。

そのために、党再生プロジェクトは、以下のことを提言する。

人事改革

年功序列にとらわれない大胆な若手登用や、慣例を廃した適材適所の人事配置を行い、さらに風通しの良い組織を構築する。

職域団体の御意見を伺うにつけても、その分野のプロ、オーソリティをつくる必要がある。例えば、各常任委員会の委員長である部会長は、就任直後に関係団体を回り、様々な課題を吸い上げ、政策や委員会運営に反映させる努力が必要である。少なくとも、部会長が、その分野の窓口となり、党内の調整も図るという意識を強く持つ必要がある。願わくば、各団体のトップ、事務方と部会長とのホットラインを構築し、それを継承していく必要がある。また、各業界や団体を代表する国会議員がいる場合には、勉強会等を通じ、問題意識を共有しておく必要がある。

こうした専門的な強い組織を構築していくためには、委員長の任期を必ずしも1年としないことも考えられるし、各委員会の所属についても、2年間は継続するのが好ましいという声もある。また、知事はじめ執行部と車の両輪として対峙していくためには、必ずしも、議長の任期を1年とする必要はないのではないか、という声もある。

議会改革

政務調査費等の透明化、費用弁償見直し、さらに、議員定数削減は、可及的速やかに議論の俎上に載せるべきである。

特に、政策提言機能強化のために、中山間地域振興、障害者施策、環境問題、入札制度など、委員会・部会横断的な様々なテーマ別の研究会を作るべきである。また、各議員連盟、当選期別勉強会等のさらなる充実を図る必要がある。

これらの成果については、ローカル・マニフェストとして、毎年公表できる形にするのが好ましい。

国と地方の連携強化

選挙協力のみならず、政策で繋がるのが政党であるのは言うまでもないが、国会議員、県議会議員、市議会議員の政策の連携ができていないのが現状であり、最低でも年に1回以上は、地元選出の自民党国会議員との定期連絡会議の開催が必要である。自民党地方議員研修会の開催など、県内の保守系の地方議員が一同に会しての勉強会、懇談会を行う必要がある。

また、我々は特に、党費の問題、政党助成金の問題等、党本部に対して我々地方の声が正確に届き、それが、党運営に反映される体制の構築を強く求めるものである。

新たな活動モデルの構築、新たな支持層の掘り起こし

友好団体との政策対話を単なる年中行事のレベルから大きく拡大し、日常的な交流をより緊密化するとともに、政策と対話、さらに新しいツールを駆使して支持のウイングを拡げ、新産業、新分野、新規団体への大胆で積極的なアプローチを行い、新たな支持層の獲得を目指すべきである。

そのために、県連執行部と地元議員参加で、中山間地域、介護現場、教育現場などに直接足を運び、自民党県連移動政務調査会や自民党セミナーを開催することも考えられる。

また、月に1回程度、学生、社会人を中心に、政治経済に関する講座を行い、将来自民党を担う、あるいは、地方議員を目指す人材を発掘する自民党塾を開塾し、将来的には、学生部を設置することも考えられる。

広報戦略の充実

地域の問題や、きめ細かくわかりやすい広報を展開するために、「あさかぜ」等で定期街

頭演説活動を行う。また、自民党県連ホームページを充実させ、自民党県連目安箱や相談日を設置すること、あるいは、県連として広報紙を作成することなどが考えられる。例えば、ローカル・マニフェストの達成度の公表など、政策実現の進捗状況の報告を行うべきである。さらに、定期的に、マスコミとの意見交換会を開催するべきである。

3 . 党再生と来る衆参選挙必勝に向けて

前述のとおり、今回の参议院選挙におけるわが党の敗因、今後の課題と改革の方向性を示したが、わが党は、これらの課題を粘り強く克服していくことなくして、党の将来に曙光を見出すことはできない。

われわれは、現状のままであれば、次期国政選挙において国民の支持と理解を得ることは極めて困難であることを、強く自覚しなければならない。われわれは、今回の選挙において、自民党支持層が自民党に投票せず、その多くが民主党に投票したという事態を深刻に受け止めなければならない。また、これに連動する形で無党派層の支持獲得でも、民主党に大差を付けられてしまったことも反省する必要がある。

このことを前提に、自由民主党岡山県支部連合会は、地方組織の再編強化等を実践し、幅広い国民・県民の支持獲得につなげていく体制を創造していかなければならない。

政治は政党のものではない。ましてや政治家個々人のものではない。国家、国民のものである。党再生の途は厳しくつらいが、これを成し遂げ、国民の信頼に堪え、その負託に応えられる新しい体制を何としても創りあげ、国民とともに凛として希望に満ちた将来展望を切り拓いていかなければならない。

今、『臥薪嘗胆』の気魄を持って、我が国のために、国民のために、我が党は、生まれ変わらなくてはならない。自由民主党岡山県支部連合会は、その魁となる。

必ず来る「明日のために！！」

自由民主党岡山県支部連合会党再生プロジェクト

平成19年9月27日設置

委員長 小 田 春 人

副委員長 内 山 登

委 員 佐 藤 真 治

〃 蓮 岡 靖 之

〃 神 宝 謙 一

〃 蜂 谷 弘 美

〃 小 倉 弘 行

〃 岡 本 泰 介

〃 青 野 高 陽

党再生プロジェクト活動状況

設立までの経緯

参議院議員選挙結果を踏まえての党活性化に向けた今後の検討課題について、県議会議員にアンケート調査

8月27日(月)

聴取項目 自由民主党の政策について、自由民主党本部の対応について、衆議院議員の活動について、県議会議員の支援体制について、片山選对本部の対応について、地域・職域支部の今後の取り組みについて、マスコミ対策について、その他

参議院選挙総括及び党活性化に向けた検討会議

8月29日(水)

自由民主党岡山県支部連合会総務会及び選挙対策委員会合同会議

8月31日(金)

開催経緯

第1回 党再生プロジェクト会議開催

9月27日(木) 今後の進め方と論点・問題点等について協議。

小選挙区別、期数別ヒアリング開催

聴取項目 参議院選挙総括、今後の選挙対策、国会議員に対する要望

第2回 党再生プロジェクト会議開催

10月10日(水) 小選挙区別意見聴取結果につき協議

職域支部からのヒアリング

10月19日から11月10日の間。33支部。

小田春人委員長 大樹支部

内山登・蓮岡靖之

**たばこ販売政連支部、理容支部、宅建支部、農業団体支部、
環境保全支部、林政支部、内航海運支部、大栄会支部**

佐藤真治・青野高陽

**歯科医師支部、医療会支部、薬剤師支部、軍恩総支部、建
設業支部、看護連盟支部、小売酒販支部**

神宝謙一・小倉弘行

**遺族会支部、歯科技工士会支部、ときわ会支部、21世紀
岡山をつくる会、栄養士連盟支部、旅客船支部、港運支部、
倉庫支部、バス支部、自動車整備支部**

蜂谷弘美・岡本泰介

**トラック支部、自販連支部、タクシー支部、LPガス支部、
自治振興支部、土地改良支部、石油販売業支部**

第3回 党再生プロジェクト会議開催

**11月2日(金) 小選挙区別意見聴取結果につき協議
地域支部別意見聴取結果につき協議**

第4回 党再生プロジェクト会議開催

11月26日(月) 「報告書」のとりまとめについて協議。

第5回 党再生プロジェクト会議開催

12月14日(金) 「報告書」をとりまとめについて協議。

第6回 党再生プロジェクト会議開催

12月17日(月) 「報告書」をとりまとめ。